

# 校長室だより

No.15 R8.10.9

## 「叱る」ことの難しさ…。

今回は「叱る」ことについて私見を述べます。

### 「褒める」ことはアクセル、「叱る」ことはブレーキ

子供は、悪いこととわかっていても、やってしまうことがあります。時には叱って欲しくてわざとしていることもあります。

そんなときには、毅然と「やめなさい！」と言ってやる必要があります。

子供がとった行動の裏にある「気持ち」をどう見極めるか、背景を探ることが大切だと考えます。

### 具体的な叱り方の一例

- 1 【個別に叱る】
  - ・ きょうだい喧嘩の場合、喧嘩相手の前で叱ると、親に叱られていることよりも、喧嘩相手の目を気にして、素直に聞けないことが多くなります。
  - また、悪いことをした子をきょうだいの前で叱ると、「自分も叱られた」かのような、イヤな気持ちになってしまいます。一対一で叱る方が聞き入れやすくなります。
- 2 【パートを叱る】
  - × ダメじゃないか 馬鹿じゃないの …………… 全面否定
  - あなたのことがいけない こんなことをしてはいけない… 部分否定
  - ※ときには逃げ道も必要です。それから、叱る時間は時間は短く、端的に。
- 3 【I(アイ)メッセージで】
  - YOUメッセージ … 悪口を言っちゃダメ
  - I メッセージ … 悪口を言ってほしくないな
- 4 【この先を考えさせる】
  - ・ 例えば、もし「友だちの悪口を言い続けていたら…」
  - 「みんなはあなたのことをどう思うかな？みんなは、あなたのことを好きでいると思う？きらいになると思う？」自分の行動を振り返らせることが大切です。

叱ることで子供は育たない。しかし、褒めるだけでも育たない  
叱ることで、褒めることの効果が上がり、子供たちは育っていくのではないか。

## 叱る ≠ 怒る

自分自身の感情が優先…「怒る」

子供のために…「叱る」

**※気をつけましょう！**

※「子供は親を映す鏡」と言われます。子供がしてしまった悪いこと、子供にして欲しくないことを自分自身がしていないか？ルールやマナーを守る姿を、他人を思いやる姿を子供に見せているのか？自身を振り返ることも大切です。

### <反省>

長年学校関係の仕事をしてきました。20年前までは学級担任として。それ以降は役所勤めだったり管理職だったり。並行して我が子の子育てもしてきました。

職場では努めて冷静に「先生」として振る舞ってきましたが、担任時代は、時にはついカッとして感情にまかせてしまったこともありました。この子を何とかしたいという熱い思いがあったのは間違いないのですが、当時の教え子たちに謝りたいです。

そして、我が子に対してはもっと感情的になってしまいました。根底に愛情があったからこそなのですが、「教育のプロ」でありながら、自身の子育ては成功ではなく、かといって大失敗かと言えばそうでもない、といったところかと思えます。決して胸を張れる父親だったわけではありません。

子育てを終えた立場だからこそ、反省の意味で、子育て中のお父さん、お母さんに言っておきたいなと…。

校長 中田邦明

